



## 第83回 風の谷のナウシカと現代

### ▼風の谷のナウシカ

有名なアニメ映画でなく宮崎駿原作の漫画のほうの話である。近未来、人類は腐海という瘴気(毒の空気)に満ちた森の進出に怯えつつ暮らしている。ナウシカは辺境の風の谷に生まれ、腐海のそばで暮らしている。残された清浄な大地の覇権を争い、大国は戦争をはじめ。人間の権力欲や恐怖は際限がないと暗澹とした気持ちになるが、ナウシカはほかの人とは違う視点でものをみる。皆が恐れる腐海や蟲たちに親しみ、腐海の生まれた理由、蟲の存在する意味を考え続ける。戦争で自分を滅ぼそうとする敵すら、その文脈を理解し赦そうとする。いつしか彼女の周りには不思議な連帯の輪が生まれていく。ナウシカが体現する「意味を考える」「ともに生きる姿勢」には、どこか宗教的な「祈り」があって、魅きつけられるのだ。

### ▼現代社会への投影

新型コロナ感染で家族を奪われたり、仕事を失った人は多い。コロナ憎しという人もたくさんいると思う。でも、ちょっと立ち止まって考えてみよう。コロナウイルスはなぜ生まれたのか、なぜ存在しているのか。ナウシカなら、そう問うだろう。もしかすると、問題なのはウイルスそのものではなく、ウイルスが蔓延する環境、たとえば人が集まる傾向(社会)、世界中を移動できる交通網、そのような人間の文明そのものではないか。100年前にはスペイン風邪、14世紀の中世ではペスト、15世紀には天然痘と、人類はパンデミックの危機を何度も乗り越えてきた。コロナウイルスが、これほどまでに甚大な影響を与えた意味を考えると、ウイルスを蔓延させる人間社会と文明のあり方を問わねばなるまい。

### ▼あなたはどう生きるのか

人新生という言葉がある。資本主義による経済発展で、この200年ほどで人類は地球環境を激変させ、ひとつの地質年代(人新生)を形成しつつあるという。風の谷の物語の結末で、腐海や蟲たちは浄化のための道具だからと諭す旧人類に対し、ナウシカは「否」と答える。「私たちは血を吐きつつくり返しくり返しその朝をこえてとぶ鳥だ、巨大な墓などなくとも世界の美しさと残酷さを知ることができる、私たちの神は一枚の葉や一匹の蟲にすら宿っているからだ」。現代の私たちは自らの活動で作りに出した人新生という環境(コロナ、温暖化、原発事故、大震災)のなかで生きざる得ない。さて、あなたはこの人新生にどう向き合うのか。ナウシカの澄んだまなざしが、あなたに問いかけている。



鳥取大学医学部  
地域医療学講座  
教授

谷口 晋一  
(たにくち しんいち)